

## 平成21年3月期 第2四半期決算短信

平成20年10月31日

上場会社名 株式会社 コモンウェルス・エンターテインメント  
 コード番号 7612 URL <http://www.cwe.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岡田 武  
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 塚田 英智  
 四半期報告書提出予定日 平成20年11月14日

上場取引所 JQ

TEL 03-3568-5020

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成21年3月期第2四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第2四半期	1,351	—	△327	—	△318	—	△271	—
20年3月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり四半期純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	
	円 銭		円 銭	
21年3月期第2四半期	△7.10		—	
20年3月期第2四半期	—		—	

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%	円 銭		
21年3月期第2四半期	2,829		2,277		79.8	59.03		
20年3月期	5,554		2,549		45.5	66.13		

(参考) 自己資本 21年3月期第2四半期 2,257百万円 20年3月期 2,529百万円

### 2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
21年3月期	—	0.00	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

### 3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	4,068	△54.9	564	32.0	584	37.0	548	14.2	14.33	

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

### 4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無  
 新規 — 社(社名) ) 除外 — 社(社名) )
- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無
- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)  
 ① 会計基準等の改正に伴う変更 有  
 ② ①以外の変更 無  
 (注) 詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他 をご覧下さい。

#### (4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	21年3月期第2四半期	38,363,220株	20年3月期	38,363,220株
② 期末自己株式数	21年3月期第2四半期	121,825株	20年3月期	120,108株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	21年3月期第2四半期	38,242,349株	20年3月期第2四半期	—株

#### ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等について、及び業績予想の具体的な内容は、平成20年10月24日付の「特別利益及び特別損失の発生並びに業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。
2. 当社は、平成20年3月期第3四半期より連結財務諸表を作成しているため、平成20年3月期第2四半期の数値及び対前期増減率については記載していません。
3. 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

## 定性的情報・財務諸表等

### 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間における日本経済は、米国のサブプライムローン問題に端を発した国際的な金融市場の不安感が増大しているなか、原油価格の高騰などを背景に個人消費に悪影響を及ぼすなど経済社会全体としては景気の減速感が強まる状況のまま推移しました。

このような経済情勢の中、当社グループは優良コンテンツを利用した商品化事業等に注力いたしましたが、コンテンツ事業・コンサルティング事業において不振傾向で、当初計画からの減少を余儀なくされました。

当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高につきましては1,351百万円となり、損益につきましては、売上高の当初計画からの減少、海外著作権獲得のため差入れていた営業保証金において差入先の返済能力等回収可能性を検討し、貸倒引当金繰入額125百万円を計上したことにより販売費及び一般管理費が当初予定より125百万円増加し、営業損失327百万円、経常損失318百万円となりました。また売掛金の回収が進んだことによる前連結会計年度末に計上した貸倒引当金戻入益89百万円があったものの、投資有価証券評価損44百万円の計上で四半期純損失271百万円となりました。

事業の種類別セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### ① コンテンツ事業

当第2四半期連結累計期間のコンテンツ事業につきましては、当初見込んでいた利益率の高い商品化事業について第3四半期連結累計期間以降に売上計上がずれ込むこととなりました。また連結子会社である㈱ユー・エンターテインメントにつきましては、売上高の計上には至らず、平成20年10月24日付で公表の「子会社の異動（譲渡）」に関するお知らせのとおり株式の全部を譲渡することとなりました。

この結果、売上高は573百万円、営業損失は28百万円となりました。

#### ② アミューズメント事業

当第2四半期連結累計期間のアミューズメント事業につきましては、アミューズメント施設用メダルゲーム機への転用事業において売上高は当初計画を下回ったものの、利益率の高い商品を予想以上に販売できたことにより利益面についてほぼ計画通り推移いたしました。

この結果、売上高は717百万円、営業利益は82百万円となりました。

#### ③ コンサルティング事業

当第2四半期連結累計期間のコンサルティング事業につきましては、「アミューズメントショッピングエリア事業」において、パチンコ営業店等の遊技業界を取巻く現況は引き続き厳しい状況で推移しており、新規コンサルティング受託店舗数が第1四半期同様伸び悩み結果となりました。さらに当初予定していた「遊休不動産等の活用についてのコンサルティング事業」についても第3四半期連結累計期間以降に売上計上がずれ込んだことにより減収を余儀なくされました。

この結果、売上高59百万円、営業損失4百万円となりました。

上記の金額には総務部門等管理部門に係る配賦不能営業費用は含んでおりません。

なお、前第3四半期より連結財務諸表を作成しているため、前年同期比は記載しておりません。

#### ④ 通期の業績の見通し

平成20年10月24日付で公表の「特別利益及び特別損失の発生並びに業績予想の修正に関するお知らせ」のとおり、第2四半期連結累計期間において「子会社株式評価損」「投資有価証券評価損」「貸倒引当金繰入額」を計上することとなり業績の見通しの修正を行いました。

コンテンツ事業につきましては、利益率の高い版權商品化事業について第2四半期連結累計期間までに売上計上が出来なかった案件を含め、第3四半期連結累計期間以降に予定していた売上高及び利益を確保できる見込みです。しかしながら連結子会社である㈱ユー・エンターテインメントにつきましては、平成20年10月24日付で公表の「子会社の異動（譲渡）」に関するお知らせのとおり当社が保有していた同社の株式の全部を譲渡することとなりましたので、㈱ユー・エンターテインメントで見込んでいた収益分が減益になります。

アミューズメント事業につきましては、第3四半期連結累計期間以降も市場ニーズの高いアミューズメント施設用メダルゲーム機への転用事業において製造元の生産調整も解除されるため、引き続き安定した収益を確保できる見込みです。

コンサルティング事業につきましては、「アミューズメントショッピングエリア事業」においては、パチンコ営業店等の遊技業界を取巻く現況が引き続き厳しい状況で推移することが想定されるため、新規コンサルティング受託店舗数については伸び悩むものと考えております。しかし「遊休不動産等の活用についてのコンサルティング事業」について第3四半期連結累計期間以降に大型案件が成立する予定で、当初予想は確保できる見込みです。

以上により、グループ全体の当連結会計期間の業績の予想といたしましては、売上高4,068百万円、営業利益564百万円、経常利益584百万円、当期純利益548百万円を、また個別の当会計期間の業績予想といたしましては、売上高4,068百万円、営業利益566百万円、経常利益586百万円、当期純利益510百万円をそれぞれ見込んでおります。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

### ① 資産、負債及び純資産の状況

#### (資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、2,829百万円（前連結会計年度末は5,554百万円）となり、2,725百万円減少いたしました。減少の主な要因は現金及び預金の減少（2,768百万円から1,510百万円へ1,258百万円減）や、受取手形及び売掛金の減少（2,030百万円から246百万円へ1,784百万円減）であります。

#### (負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債は、551百万円（前連結会計年度末は3,004百万円）となり、2,453百万円減少いたしました。減少の主な要因は支払手形及び買掛金の減少（2,784百万円から445百万円へ2,339百万円減）であります。

#### (純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は2,277百万円（前連結会計年度末は2,549百万円）となり、271百万円減少いたしました。減少の主な要因は、四半期純損失を計上したことによる利益剰余金の減少（△2,273百万円から△2,545百万円へ271百万円減）であり、自己資本比率は79.8％となりました。

### ② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間における現金及び現金同等物は1,510百万円となり、前連結会計年度末と比較して1,258百万円の減少となりました。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、1,058百万円となりました。

これは税金等調整前四半期純損失（△271百万円）の計上、コンテンツ著作権勘定償却額（50百万円）、仕入債務の減少（△2,404百万円）、売上債権の減少（1,783百万円）等の要因によるものです。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、200百万円となりました。

これは主に貸付による支出（237百万円）等の要因によるものです。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、0百万円となりました。

これは自己株式の取得による支出（0百万円）によるものです。

## 3. 連結業績予想に関する定性的情報

第2四半期累計期間における業績の進捗を勘案し、業績予想の見直しを行った結果、平成20年5月15日付「平成20年3月期決算短信」にて公表いたしました平成21年3月期の業績予想（連結・個別）を修正しております。

詳細については平成20年10月24日付「特別利益及び特別損失の発生並びに業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照願います。

## 4. その他

### (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

なお、平成20年10月24日付で公表の「子会社の異動（譲渡）に関するお知らせ」のとおり、連結子会社である株式会社ユー・エンターテインメントの全株式を譲渡することいたしました。

### (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

①当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

②通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来個別法による原価法によっておりましたが、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日）が適用されたことに伴い、個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）により算定しております。なお、この変更による営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失に与える影響はありません。

5. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,510,153	2,768,633
受取手形及び売掛金	246,218	2,030,496
商品	120,000	120,000
短期貸付金	357,332	185,432
仮払金	290,704	350
その他	197,574	171,799
貸倒引当金	△88,021	△177,451
流動資産合計	2,633,961	5,099,258
固定資産		
有形固定資産	32,926	23,387
無形固定資産	18,176	68,582
投資その他の資産		
長期貸付金	1,357,224	1,357,224
敷金及び保証金	376,604	380,604
その他	148,442	238,045
貸倒引当金	△1,738,240	△1,612,614
投資その他の資産合計	144,031	363,260
固定資産合計	195,134	455,230
資産合計	2,829,095	5,554,489
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	445,559	2,784,673
未払法人税等	5,854	12,001
引当金	7,844	12,794
その他	33,343	132,369
流動負債合計	492,601	2,941,839
固定負債		
引当金	6,687	6,811
その他	52,044	56,173
固定負債合計	58,732	62,984
負債合計	551,333	3,004,824

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,910,916	2,910,916
資本剰余金	1,961,297	1,961,297
利益剰余金	△2,545,699	△2,273,944
自己株式	△69,294	△69,146
株主資本合計	2,257,219	2,529,122
新株予約権	20,542	20,542
純資産合計	2,277,762	2,549,665
負債純資産合計	2,829,095	5,554,489

(2) 四半期連結損益計算書  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)
売上高	1,351,146
売上原価	1,129,825
売上総利益	221,320
販売費及び一般管理費	548,530
営業損失(△)	△327,209
営業外収益	
受取利息	7,392
その他	1,309
営業外収益合計	8,702
営業外費用	
為替差損	137
その他	10
営業外費用合計	147
経常損失(△)	△318,655
特別利益	
前期損益修正益	18,375
貸倒引当金戻入額	89,429
その他	3,006
特別利益合計	110,812
特別損失	
固定資産除却損	18,516
投資有価証券評価損	44,699
特別損失合計	63,216
税金等調整前四半期純損失(△)	△271,060
法人税、住民税及び事業税	695
法人税等合計	695
四半期純損失(△)	△271,755

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間  
(自 平成20年4月1日  
至 平成20年9月30日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純損失 (△)	△271,060
減価償却費	4,183
コンテンツ著作権勘定償却額	50,315
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	36,196
固定資産除却損	18,516
投資有価証券評価損益 (△は益)	44,699
売上債権の増減額 (△は増加)	1,783,647
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△205,840
仕入債務の増減額 (△は減少)	△2,404,082
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	△104,583
預り保証金の増減額 (△は減少)	△4,000
その他	△7,362
小計	△1,059,369
利息及び配当金の受取額	2,371
法人税等の支払額	△1,285
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,058,283
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△32,148
貸付けによる支出	△237,000
貸付金の回収による収入	65,100
敷金及び保証金の差入による支出	△2,500
敷金及び保証金の回収による収入	6,500
投資活動によるキャッシュ・フロー	△200,048
財務活動によるキャッシュ・フロー	
その他	△147
財務活動によるキャッシュ・フロー	△147
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,258,479
現金及び現金同等物の期首残高	2,768,633
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,510,153

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

当第2四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年9月30日）

	コンテンツ事業 (千円)	アミューズメント事業 (千円)	コンサルティング事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	573,668	717,634	59,843	1,351,146	—	1,351,146
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	573,668	717,634	59,843	1,351,146	—	1,351,146
営業利益（又は営業損失）	△28,876	82,726	△4,373	49,476	△376,686	△327,209

(注) 1. 事業区分は、事業の種類・性質の類似性等により区分しております。

2. 各事業の主要なサービス

事業区分	主要なサービス
コンテンツ事業	肖像権・著作権等の版権管理業務、権利活動に付帯する広告宣伝・媒体業務
アミューズメント事業	遊技機転用業務（パチンコ・パチスロ機をアミューズメント施設に転用する業務）
コンサルティング事業	ぱちんこ営業店への景品供給、仕入、陳列交換等に係る企画運営のコンサルティング業務

[所在地別セグメント情報]

当第2四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年9月30日）

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

[海外売上高]

当第2四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年9月30日）

海外売上高がないため、該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。



## 「参考資料」

### 前年同四半期に係る財務諸表

(注) 当社は、平成20年3月期第3四半期より連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期（平成20年3月期第2四半期）における（要約）四半期連結損益計算書、（要約）四半期連結キャッシュ・フロー計算書、セグメント情報については記載しておりません。